

令和元年5月15日(水) No.437

からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校



里中だより

川口市立里中学校

川口市里621番地

TEL 048-282-5708

さわやか相談室 284-1010

1年213名 2年176名 3年179名

<http://www.sato-chu.com/>

必要なのは、夢や目標を持てるような生活

校長 高田 晶子

ふんわりした陽射と心地よい風が吹き、過ごしやすい季節となりました。4月下旬より10日間実施した里小学校での「あいさつ運動」では、初日には中学生に顔が下向きだった里小児童も、少し控えめな声で挨拶する里中生徒も、10日後にはキラキラした目でお互いを見ながら挨拶していました。アイコンタクトして行う挨拶は、見ていても本当に気持ちがいいものでした。連携校同士で高め合えるこの地域の素晴らしさに感謝しています。



先日、展覧会に出かけ、その時の言葉にとっても印象深いものがありました。それは、展示してある作品の解説文の中にあった、「人は、夢や目標を掲げてそれに向けて頑張れる方がいいのだろうけど、日々コツコツやるなかで目標が見えてくる人もいるのではないかな。自分は後者の方だと思うな。」という言葉です。学校では目標を持つように指導をしていることが多くあります。コツコツやる生活は大事であるという指導もしています。これらは、両方とも大事なこととして、別物として捉えていたかもしれません。

また、大型連休中に山登りに行ってきましたが、その際に同行者が話していたことを思い出しました。「小さい頃は、木に登って母に怒られたり、野山を歩き回って面白いものを見つけたり、その時の楽しみしか考えていない生活だったわね。楽しかったわ。正義感だけはあったけどね。」と言いながら、腕白な子ども時代の話をしていました。

若者たちは、夢を持ちづらい時代に生きている、などと言われるようになって久しくなりました。目標を持つことは、自分の人生やこの先の希望など、やりがいのある日々の生活づくりのためには欠かせないことだと考えていました。解説文の中にあった言葉のような、毎日コツコツやることから目標が生まれてくるという考え方には、こういうものだと決めつけている自分に対し、客観的に気づかされました。やりがいのある生活には、どちらもきっと変わらないはずなのに。

本当に大切なのは、夢を持てるような生活や目標を立てられるような生活をする事なのではないでしょうか。もちろん、目標を立てた緊張感のある生活は、自分の力を高め、伸ばすためには大切なことです。ですが、目標を立てるまでの途中経過をもっと大切にしていかなければいけない、と思いました。大型連休をのんびり過ごさせていただき、新しい「令和」の時代を迎え、そのようなことを考えていました。

皆様はいかががでしょうか。